



環境経営レポート

2023年4月～2024年3月

株式会社 **ダイシン機工**



発行日：2024年5月27日

改訂日：2024年6月14日



認証番号0012147

目次

組織の概要・対象範囲・E A 2 1 推進組織図 P.3

環境経営方針 P.4

環境経営方針Ⅱ（SDGsへの取組み） P.5

環境経営目標・環境経営計画 P.6

環境経営目標の実績 P.7

環境経営計画の取組結果とその評価

環境経営計画の次年度取組内容 P.8

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果

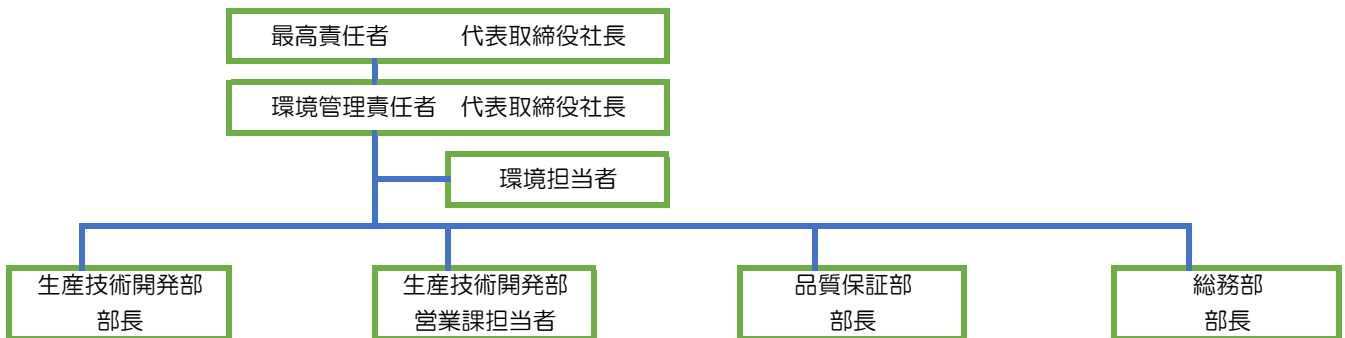
代表者による全体評価と見直し・指示の結果 P.9

社内取組の紹介 P.10

組織の概要・対象範囲

事業所及び代表者氏名	株式会社ダイシン機工	代表取締役社長	岡田 大佑										
所在地	本社・工場	〒710-0024	岡山県倉敷市亀山726-5										
環境管理責任者及び連絡先	環境管理責任者：岡田大佑	環境管理担当者：総務部	濱岡 麻里香										
	TEL：086-428-8008	FAX：086-428-8011											
	E-MAIL：hamaoka.m@daishinkiko.co.jp												
事業内容	金属加工製品の設計・開発及び製造 産業機械部品の製造 産業機械（治工具類）の輸入販売 医療機器の設計・開発及び製造												
事業規模	<table border="1"> <tr> <td>創立</td> <td>1986年5月</td> </tr> <tr> <td>資本金</td> <td>1000万</td> </tr> <tr> <td>売上高</td> <td>28,364万円（2023年度実績）</td> </tr> <tr> <td>従業員数</td> <td>22名（内パート5人）</td> </tr> <tr> <td>床面積</td> <td>874.92㎡</td> </tr> </table>			創立	1986年5月	資本金	1000万	売上高	28,364万円（2023年度実績）	従業員数	22名（内パート5人）	床面積	874.92㎡
創立	1986年5月												
資本金	1000万												
売上高	28,364万円（2023年度実績）												
従業員数	22名（内パート5人）												
床面積	874.92㎡												
事業年度	4月～翌年3月												
対象範囲	株式会社ダイシン機工全組織 本社・工場												
活動	事業内容の通り												
環境経営レポートの対象期間	2023年4月1日～2024年3月31日												

E A 2 1 推進組織図



役割・責任・権限

代表者兼環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任者 経営における課題とチャンスの明確化 環境経営方針の策定、見直し及び全従業員への周知 環境経営目標、環境経営活動計画書の確認と承認 代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 環境関連法規等と環境経営レポートの確認と承認
環境担当	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、E A 2 1 推進事務局 環境関連書類の集計と作成 環境経営レポートの作成と更新 従業員に対する教育訓練の実施 環境上の緊急事態への準備及び対応
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知 自部門に関連する環境経営活動計画の実施 自部門の問題点の発見、是正
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境に配慮した取組みの重要性を自覚 自主的、積極的に環境活動へ参加

環境経営方針



持続可能な社会を実現するため 技術力で今ある
商品・サービスにプラスαの価値を創造する
創造業カンパニーを目指します。

【基本方針】

株式会社ダイシン機工は、企業活動の主体である機械加工にプラスαの価値を創造し、多様化する環境課題の解決に貢献します。また、社員一人ひとりが環境保全の意識を高く持ち持続可能な社会を実現するために積極的に行動します。

【活動方針】

- ① エコアクション21に基づき環境経営システムを運用し、継続的改善を推進します。
- ② 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- ③ 具体的に次のことに取組みます。
 - 1) 電気・燃料等のエネルギー使用量を低減します。
 - 2) 廃棄物の排出量を削減し、分別を徹底し再資源化を推進します。
 - 3) 水の使用量を低減します。
- ④ 環境に配慮した製造、販売に努めます。
- ⑤ この環境経営方針は全従業員に周知、徹底します。
- ⑥ 環境への取組みを環境経営レポートとして取りまとめて公表します。

制定日 2017年8月5日
更新日 2022年4月1日

株式会社 **ダイシン機工**
代表取締役社長 **岡田 大佑**



SDGs宣言書

誰もが誇りをもって働き続けられる職場づくり

- 一人ひとりの能力、個性を尊重し、安全かつ充実した働き方の出来る労働環境の構築します。
- 人材育成カリキュラムを充実させ、すべての従業員に学ぶ機会を提供し、専門的な技術の習得を促します。



環境保護の推進

- 環境負荷低減に向けて、エコアクション21の取組を継続して行います。
- 材料や加工時間の無駄を省くことで、廃棄物の削減と省電力に努めます。
- 環境に配慮した自社製品の開発を行ないます。



地域に貢献 社会に貢献

- 地元学校行事やイベントに協賛し、地域活性化に貢献します。
- インターンシップや工場見学を通して、子どもの教育促進を行います。
- 地域ボランティア活動を通して、清掃・美化に尽力し、従業員を環境について考えられる人に育てます。



独自の技術でイノベーションを

- 電気自動車や新エネルギー関連、医療機器などの最先端のものづくりを行います。
- 展示会やコンテストに参加し技術力の向上を図るとともに、県内外へ技術力を示します。
- 官学、財団、他企業と協議し、ニーズを踏まえた自社製品の開発、製造に挑みます。



SDGsへの取組み

生産管理システムの導入による納期遵守率の向上

- システム導入による余裕時間の算出、専門的な技術力向上の為の人材育成時間の捻出

協力会社とのコミュニケーション向上による、情報収集

- 顧客、協力会社との連携を深め無駄を省き環境負荷の低減を行う

新設備の導入などによる技術力向上と効率化、省電力化

- 新しく省電力機械を導入しました。(R6.2)



新設備 TAKISAWA TAC-510-L10

環境経営目標

2018年4月～2019年3月までの1年間の使用量・排出量の調査を行い、その数値を基準値として次年度以降の目標数値を設定し、以下に示す。

原単位の基本	年間売上(万円)	25,000
	年間水使用量は人数(人)	21

環境経営方針の項目	取組項目	目標種別	単位	年間の削減目標又は取組み頻度				
				(年度は4月～翌年3月)				
				2018年度	2021年度	2022年度	2023年度	
				基準値	-3%	-4%	-5%	
二酸化炭素の排出量削減	二酸化炭素の排出量の削減	総量	Kg-CO ₂	114,001	110,564	109,424	108,301	
		原単位	kg-CO ₂ /万円	4.560	4.423	4.377	4.332	
	電力の使用量の節減	総量	kWh	144,905	140,558	139,109	137,660	
		原単位	kWh/万円	5.796	5.622	5.564	5.506	
	ガソリン使用量の節減	総量	L	2,916	2,829	2,799	2,770	
		原単位	L/万円	0.117	0.113	0.112	0.111	
	軽油使用量の節減	総量	L	1,285	1,247	1,234	1,221	
		原単位	L/万円	0.051	0.050	0.049	0.049	
	灯油使用量の節減	総量	L	※ 1,348	1,301	1,287	※ 1,335	
		原単位	L/万円	0.054	0.052	0.051	0.053	
	廃棄物の削減	一般廃棄物の削減(△1kg)	総量	kg	985	982	981	980
			原単位	kg/万円	0.039	0.039	0.039	0.039
金属材料のロス		総量	kg	10,511	10,199	10,091	9,985	
		原単位	kg/万円	0.420	0.408	0.404	0.399	
水使用量の削減	水道使用量の削減	総量	m ³	184	178	177	175	
		原単位	m ³ /人	8.762	8.476	8.429	8.333	
環境への配慮	地域清掃(川掃除)	回数	年	2	2	2	2	
	プラスαの価値を創造した新規商品開発	総量	—	継続的な改良・製造				

※電力の二酸化炭素の排出係数は中国電力の2016年度0.694kg-CO₂/kWhを使用する。

※産業廃棄物の排出削減の基準の数値は、2018年度に排出した総量にしている。

※化学物質(PRTR制度対象化学物質)の取扱い無し。

※2023年度灯油使用量の節電目標値は、2022年に暖房機が1台増えたため 2022年度の実績-1%とする。

環境経営計画

環境経営目標に掲げた目標を達成するために、
各項目の主な取組み内容・確認方法を決め下記に示す

環境経営方針の項目	取組み項目	具体的な取組み内容
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の節電	不要照明の消灯と老朽化した電気のLED化
		エアコンフィルターの定期清掃の実施
	ガソリン使用量の節電	営業車の定期的な整備・点検とエアコンの適正な使用
	軽油使用量の節電	営業活動と納品日を集約しルートの効率化
	灯油使用量の節電	暖房時扉の解放禁止と適正温度の確認
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	ペーパーレスの推進と文書のデータ化促進 コピー用紙の両面使用
	金属材料のロス	切削量の削減の為、工程の見直しを行い適正な材料の選定
	産業廃棄物等の適正処理	廃棄物管理票(マニフェスト)をもとに廃棄物の適正処理の実施
水使用量の削減	水道使用量の削減	節水意識の向上・定期的な水漏れチェック
環境への配慮	地域清掃(川掃除) 年2回参加	地域清掃(川掃除)への積極に参加する
	プラスαの価値を創造した 新規商品開発	リサイクル可能な部品を取り入れ継続的に新規商品開発を行い会社のPR活動にも力を入れる

環境経営目標の実績

2023年4月～2024年3月までの1年間の使用量・排出量の調査を行い、基準値に対する増減率を以下に示す。

原単位の基本	基準年間売上（万円）	25,000
	年間水使用量は人数（人）	21
	2023年度売上（万円）	28,364
	年間水使用量は人数（人）	22

環境経営方針項目	取組項目	目標種別	単位	年間の削減目標又は取組み頻度			
				（年度は4月～翌年3月）			
				2018年度	2023年度		増減率（%）
				基準値	目標【-5%】	実績	
二酸化炭素の排出量削減	二酸化炭素の排出量の削減	総量	kg-CO ₂	114,001	108,301	94,719	
		原単位	kg-CO ₂ /万円	4.560	4.332	3.339	-12.54%
	電力の使用量の節減	総量	kWh	144,905	137,660	120,693	
		原単位	kWh/万円	5.796	5.506	4.255	-12.33%
	ガソリン使用量の節減	総量	L	2,916	2,770	2,645	
		原単位	L/万円	0.117	0.111	0.093	-4.51%
	軽油使用量の節減	総量	L	1,285	1,221	703	
		原単位	L/万円	0.051	0.049	0.025	-42.42%
	灯油使用量の節減	総量	L	1,348 ※	1,335 ※	1,208	
		原単位	L/万円	0.054	0.053	0.043	-9.51%
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減（△1kg）	総量	kg	985	980	640	
		原単位	kg/万円	0.039	0.039	0.023	-34.69%
	金属材料のロス	総量	kg	10,511	9,985	9,609	
		原単位	kg/万円	0.420	0.399	0.339	-3.77%
水使用量の削減	水道使用量の削減	総量	m ³	184	175	133	
		原単位	m ³ /人	8.762	8.333	6.045	-24.00%
環境への配慮	地域清掃（川掃除）	回数	年	2	2	2	—
	プラスαの価値を創造した新規商品開発	総量	—	継続的な改良・製造			

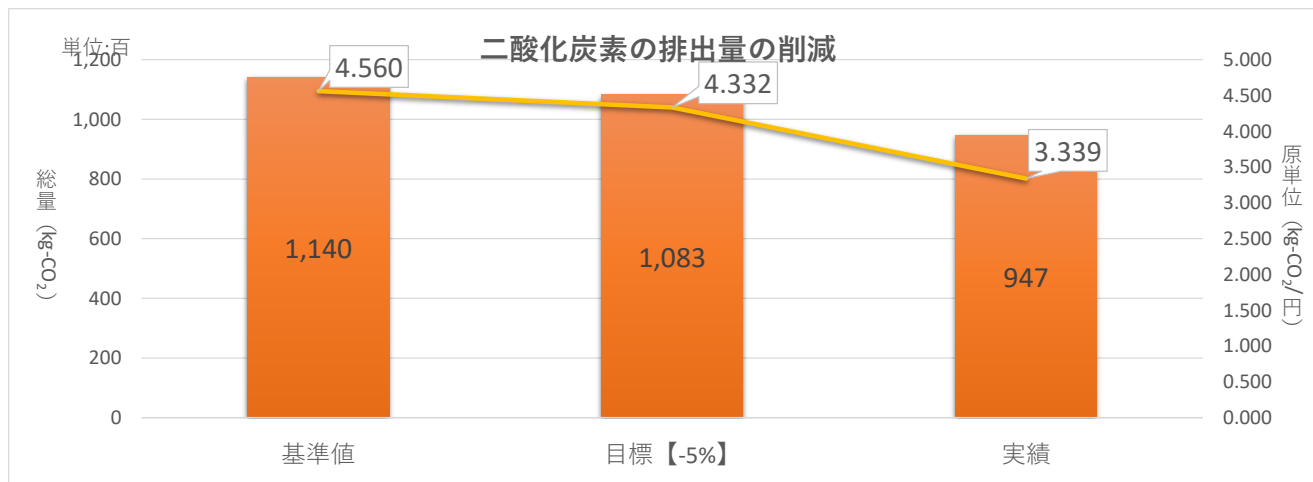
※増減率＝（実績－目標値）／目標値×100

※電力の二酸化炭素の排出係数は中国電力の2016年度0.694kg-CO₂/kWhを使用する。

※産業廃棄物の排出量削減の基準の数値は、2018年度に排出した総量にしている。

※化学物質（PRTR制度対象化学物質）の取扱い無し。

※2023年度灯油使用量の削減目標は2022年に暖房機が1台増えた為 2022年度の実績-1%とする



環境経営計画の取組結果とその評価

環境経営計画の具体的な取組みに対する評価と結果を以下に示す。

取組項目	具体的な取組み内容			評価	結果
	目標原単位	実績原単位	増減率		
二酸化炭素排出量の削減	4.332	3.339	-12.54%	12.54%減少と目標達成出来ました	○
電力使用量の節減	不要照明の消灯と老朽化した電気のLED化 エアコンフィルターの定期清掃の実施			玄関の電灯を老朽化に伴いLED化しました。次年度は全工場LED化予定	○
ガソリン使用量の節減	営業車の定期的な整備・点検とエアコンの適正な使用			ルートの効率化、整備・点検も行われていることを確認しました	○
軽油使用量の節減	営業活動と納品日を集約しルートの効率化				
灯油使用量の削減	暖房時扉の解放禁止と適正温度の確認			適正温度管理の結果、目標達成できました	○
一般廃棄物の削減	ペーパーレスの推進と文書のデータ化促進 コピー用紙の両面使用			プラスチックごみを分別することにより一般廃棄物が減少しました	○
金属材料ロス	切削量の削減の為、工程の見直しを行い適正な材料の選定			稼働率を落とすことなく削減出来ました	○
	産業廃棄物管理表(マニフェスト)をもとに廃棄物の適正処理の実施			産業廃棄物管理表(マニフェスト)帳票にて管理	○
水道使用量の削減	節水意識の向上・定期的な水漏れチェック			節水の心がけと周知により目標達成出来ました	○
地域清掃(川掃除)	地域清掃(川掃除)への積極的に参加			年間2回の地域ボランティアに参加しました	○
プラスαの価値を創造した新規商品開発	新製品の開発を継続的に行い、新聞などに掲載されたこともあり、順調に販売することが出来ました。引き続き会社のPRを多方面に向けて積極的に行います				○

環境経営計画の次年度取組内容

目標を達成できているものは取り組みを継続して行き、達成できないものは取り組みを見直し改善に努める

取組み項目	具体的な取組み内容
二酸化炭素排出量の削減	社内の照明のLED化と古いエアコンの入れ替え エアコンフィルターの定期清掃の実施
ガソリン使用量の節減	新型営業車の導入 エアコンの適正な使用
軽油使用量の節減	営業活動と納品日を集約しルートの効率化
灯油使用量の節減	暖房使用時に適正温度の表示と温度湿度計の設置と 開閉注意の表示
一般廃棄物の削減	ペーパーレスの推進と文書のデータ化促進 分別リサイクルの促進
金属材料ロス	切削量の削減の為材料、工程の見直しを行い適正な材料の選定 適正な在庫数の管理による、作業時間の削減
水道使用量の削減	節水意識の向上・定期的な水漏れチェック
地域清掃(川掃除)	地域清掃(川掃除)へ積極的に参加する
プラスαの価値を創造した新規商品開発	リサイクル可能な部品を取り入れ継続的に新規商品開発を行い会社のPR活動にも力を入れる

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果と違反訴訟などの有無を以下に示す

環境関連法規	遵守する項目	遵守評価	判定
廃棄物処理法	一般廃棄物収集業者の許可の確認、契約	委託契約書の締結	○
	産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約	委託契約書の締結	○
	マニフェストの交付、変換期日の管理、保存	マニフェスト	○
	産業廃棄物管理表交付等状況報告書の提出	報告書控え	○
	産業廃棄物置き場の掲示板設置	掲示板	○
	自社による運搬時の表示と書類管理	運搬表	○
浄化槽法	保守点検、清掃、水質定期検査の実施	検査記録	○
家電リサイクル法	特定家電4品目の適正な事業者への引き出し	家電リサイクル券 (写し)	廃棄実績なし
自動車リサイクル法	使用済み自動車の適正な事業者への引き渡し	取引証明書	廃棄実績なし
フロン排出抑制法	廃棄時、修理時のフロン類登録事業者による適正処理	引取り証明書	廃棄実績なし
	フロン類使用機器の適正な管理と定期点検の実施	点検記録	○
消防法	消防計画の作成、避難訓練の実施	火災対応手順書	○
	消防設備の点検	点検記録	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価結果、遵守されていることを確認しました。

なお、関係当局より違反等の指摘はありませんでした。

過去3年間の法令違反・訴訟及び外部からの苦情はありませんでした。

代表者による全体評価と見直し・指示の結果

活動全体を通して以下の観点で評価を実施することより、現状の課題を明確にし来年度以降の活動に反映させる

活動全体の評価	
環境経営方針	SDGs宣言書を作成し、環境経営方針と合わせて活動することが出来ました
環境経営目標及び環境経営計画	中期目標値の見直しを行い、基準年度も再設定を行う
実施体制	新しい社員が増えたため、もう一度、EA21活動の周知を行う
環境関連法の見直し・遵守状況	環境関連法規制等への違反はなく、最新の情報収集に努めます
外部からの環境に関する苦情や要望	外部からの異常・苦情はゼロを更新している

次年度以降の目標・取組・環境経営システムの見直しが必要か検討し、来期の活動に反映させる

次年度以降の活動等の見直し			代表者のコメント
環境経営方針の変更	あり	なし	今期は、すべての目標を達成することが出来ました。昨年から引き続き生産管理システムを構築してきたため、効率よく生産を行うことで残業時間をなくし電力などの無駄な消費を減らしました。来年度はさらに生産管理システムの効率化を図り、工場の稼働時間のさらなる短縮をはかります。また、LED化をすすめ電力量の削減を行います。
環境経営目標の変更	あり	なし	
環境経営計画の変更	あり	なし	
環境経営システムの変更	あり	なし	
その他変更の必要な項目等	あり	なし	

見直し実施日：2023年4月26日 代表取締役社長 岡田大佑

社内取組の紹介

社内でプラスチックごみ回収BOXを新たに設置しゴミの分×についての一覧表を作成し、従業員に周知することで一般ごみの削減に取組みました。

ごみの分別にご協力下さい

ごみの中には、まだ再利用できるものがあり、それらを資源としてリサイクルすることが「ごみの減量」につながります。
 “誰がばごみ・分ければ資源”を各営業にごみの分別を今一度再確認し今後一層のご協力をお願いします。

 <p>燃えるごみ</p> <p>生ごみ 汚れた紙類 ペーパータオル等 割り箸 紙コップ 吸い殻</p>	 <p>資源ごみ</p> <p>段ボール 雑誌 雑誌 新聞紙 菓子箱 ノート</p>	<p>回収場所 各倉庫のゴミ箱</p> <p>まごみの水気を切ってから出してください 油付きの多いものは産業廃棄物置き場に できるだけ詰まらして入れてください</p>
 <p>紙</p> <p>結 制用 紙類</p>	 <p>産業廃棄物</p> <p>捨て付けたもの ウェス 安全靴 手袋 ほうき</p>	<p>回収場所 2F資源ごみ置き場</p> <p>工場での段ボールや梱包・梱包は1F 資源フリトへ置いてください</p> <p>回収場所 第2工場産業廃棄場</p> <p>漆のついたものはできるだけ入れない ようにして回収箱に入れてください</p>
 <p>プラスチック</p> <p>クリアファイル 文具類 プラ容器 ラベル等 キャップ</p>	 <p>ペットボトル ビン 缶</p>	<p>回収場所 1F回収BOX 第2工場産業廃棄場</p> <p>1Fにプラごみ回収BOXを設置しました。 1F回収BOXに水気を含んだものは入 れないでください。</p> <p>廃棄場所 各種梱包回収BOX</p>
 <p>金属</p> <p>金属くず NG品 金属缶 ホルト</p>	 <p>乾電池</p> <p>蛍光灯</p>	<p>廃棄場所 グライ貯置き場</p> <p>社内各部署 1Fカウンター回収BOX 東2工場産業廃棄場 第2工場産業廃棄場</p>

DAIICHI-KIKO

プラスチックごみの分別種類早見表

ゴミ等の中には、プラスチックでできたものが多くあります。リサイクルできるものはできるだけ再資源化をするため、皆さまの分×へのご協力をお願い致します

<p>プラスチックごみとして回収BOXに 捨てるもの</p> <p>プラスチックケース・文房具・クリアファイル 発泡スチロール・ラップビニール袋 ラベル・PPバンド</p> 	<p>通常もえるゴミとして廃棄するもの</p> <p>油などが付着しているビニール ビニールテープ・カップ材のキャップ 食品のついたビニール袋</p> 
--	--

 これがついていても捨てるものは可燃ゴミです

プラスチックごみとして産業廃棄物置き場に持っていくゴミ

発泡スチロール・発泡スチロール梱包材・プラスチックボトル・ビニールホース・ゴム手袋



ご協力のほど
お願い致します

Before



第2工場の窓を遮熱塗料で塗装し断熱効果で夏の暑さ対策を行いました

After

